埼玉新聞　令和７年９月７日（日）

思い出の品で愛届ける

回収に協力呼びかけ

熊谷富士見中２年

熊谷市立富士見中学校の2年生が「フードドライブ」を参考に、地域貢献活動を行っている。生徒が主体となり、クラスごとに回収品を設定。市内の施設にボックスを置き、10日まで市民らに協力を求める。集まった物品は、市内の生活困窮世帯や海外の難民らに届けられる予定だ。（田付智大）

同校では、総合的な学習の時間に、全校生徒が持続可能な開発目標（SDGs）を学んでいる。3年生は市に政策を提言するなど、それぞれの学年ごとに取り組む。

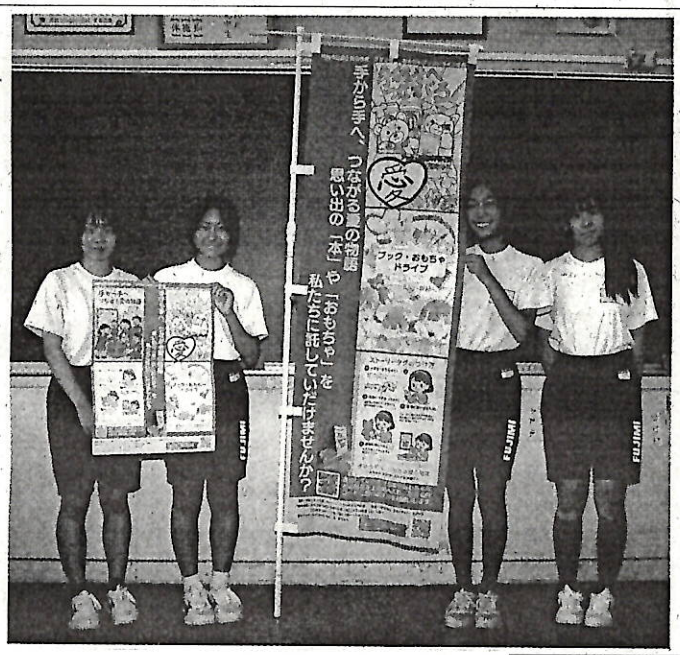
2年生は、「10年後も住み続けたいまちにするには」とのテーマを設定。家庭などで利用しない期限切れ前の食材を寄付してもらい、必要とする人々に提供する「フードドライブ」活動にならって、品物を集めることにした。生徒たちが中心となった実践は初めて。田沼良宣校長(58)は「本校は学区が広く、地域との連携が図りづらいのが課題だった。中学生が学区内の人々を巻き込みながら、新しい住民も多い地域でつながりをつくれれば」と願う。

6クラス、228人が在籍する2年生は、各組ごとに文房具や本、服、食品といった募集する品物を決定。生徒が市内の商業施設に連絡を取るなどして、回収ボックス設置への協力を依頼した。

玩具と本を集める2組は、「手から手へ　つながる愛の物語」と題して、市内のNPOに趣旨への賛同を呼びかけた。寄付する人には、物品についての思い出を2次元コードから回答してもらう。思いと一緒に寄付品を受け取った人は、ウェブ掲示板に感謝の気持ちを掲載できる。

この仕組みは運営部の佐藤瑠唯さん(13)、森美潤さん(14)、加藤愛永さん(13)、木村ゆめさん(13)を中心に、クラスの38人で考えたという。運営部の4人は「思い入れのある物が、次の持ち主のところで新たな思い出づくりに役立てば。私たちの手で、熊谷を愛がリレーされる温かなまちにしたい」と、全員の気持ちを代弁した。

問い合わせは、同校（☎048・521・0314）へ。



ポスターやのぼり旗を手に、活動への協力を呼びかける2年2組の運営部員たち＝4日、熊谷市中央の市立富士見中学校